

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

「生物多様性のための30by30 アライアンス」への参加について ～学内林を活用し、生物多様性保全に貢献します～

国立大学法人横浜国立大学（神奈川県横浜市、学長：梅原 出）は、このたび環境省が主導する「生物多様性のための30by30（サーティ・バイ・サーティ）アライアンス」（以下、アライアンス）に、参加大学として登録されました。

《生物多様性のための30by30 アライアンス》

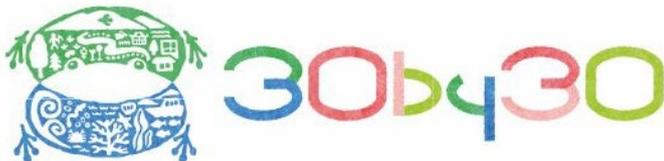
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>

30by30（サーティ・バイ・サーティ）とは、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。

横浜国立大学の常盤台キャンパスは、横浜の都市部に位置するにも関わらず古くから森が残されており、希少な植物や在来植物が生き残っています。人間が緑と共生する環境保全林を作るため、当時環境科学研究センター教授であった故宮脇昭氏の“ふるさとの木によるふるさとの森づくり”の原則により苗木で植えられた樹木と相俟って現在の森を形成しています。また、緑地保全のため緑地区分を設定し、区分の特色に合わせた管理と、それを活かした活動に取り組んでいます。

本学ではアライアンスの設立趣旨に賛同し、環境に配慮した、広く社会及び地域環境と調和のとれたエコキャンパスの構築を積極的に推進いたします。特に自然地形に沿った機能配置の継承、潜在的な自然植生を踏まえた環境保全林の維持など自然と共生した多様な外部空間を形成することで、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

《 ”生物多様性のための30by30 アライアンス” ロゴマーク 》



本件に関するお問い合わせ先
横浜国立大学 総合学術高等研究院
e-mail ias-ims@ynu.ac.jp